

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究(B) (海外)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19401042  
 研究課題名 (和文) 東北アジア (日中韓露) における朝鮮族の拡散と新コリアン・ネットワーク形成の研究  
 研究課題名 (英文) Research on the Korean Diasporas in Northeast Asia and the Formation of New Korean Migrant Networks

研究代表者 Saveliev Igor  
 名古屋大学・大学院国際開発研究科・准教授  
 研究者番号：60313491

## 研究成果の概要 (和文)：

研究代表者と研究分担者は、中華人民共和国 (上海、広州、深セン、香港、延辺地方)、ロシア (ウラジオストク、ハバロフスク、ウスリイスク、モスクワ、サンクト・ペテルブルグ)、大韓民国 (ソウル、釜山、安山、インチョン)、ウズベキスタンにおいて、現地調査を実施、収集したデータをもとで、中国朝鮮族とロシア・コリアンの移動要因とパターン分類、移動先国家や地域と朝鮮族社会との諸関係など及び中国朝鮮族やロシア・コリアンのネットワーク形成過程などを解明し、その研究成果を、韓国、ロシア、日本の国際シンポジウムにおいて発表し、さらに学術論文・図書においても発表した。

## 研究成果の概要 (英文)：

Tatsuhiko Sakurai, Igor Saveliev and Akihiro Asakawa, conducted the field work in the PRC, ROK, Russia, Uzbekistan and Japan, analyzed the causes and patterns of the migration of ethnic Koreans in China and Russia, explored the relationship between the receiving state and Korean migrant communities, examined the ongoing transformation of their communities and family structure, and the formation of migrant networks. The results of the first-year study has been presented by all three research team members at the international symposia in the ROK, Russia and Japan and in the number of academic articles and the book.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	6,800,000	2,040,000	8,840,000

研究分野： 人文学B  
科研費の分科・細目： 文化人類学

キーワード：

- (1) 朝鮮族 (2) コリアン (3) 移住者ネットワーク  
(4) 国際移動 (5) アイデンティティ

### 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の波のなかで、東北アジア地域は、国境を越えた人的移動が急速に拡大している。特に 21 世紀に入ってから、国境を越えた人的流動は想像を越えるほどに活発化している。これらの大規模な人の移動は膨大なモノや情報、マネーの流通、更なる二次的な人的流動を促しているのはいうまでもない。

そのなかで、中国をバックグラウンドとする中国朝鮮族及び旧ソ連のいわゆるロシア・コリアンは、中国、韓国、日本、ロシアに拡散し、日・中・韓・露を跨ぐ朝鮮族の新しいネットワークを形成し、東北アジアのグローバル化の重要なアクターになりつつある。

### 2. 研究の目的

本研究は、ロシア・コリアン社会及び中国朝鮮族社会でいま生起しつつある問題、すなわち彼らの東北アジア 4 カ国に跨る大量拡散に伴って、活発に展開される新コリアン・ネットワークの実態をこの 4 カ国への現地調査によって明らかにしようとするものである。ロシア・コリアンと中国朝鮮族が形成しつつある国境を越えたネットワークを彼らの移動、附随する情報・文化の交流、モノの流通、企業の移転、地域間コミュニケーションの促進、アイデンティティの変質、家族形態の変容などの諸分野に注目しながら、ネットワークの形成過程とその内実、定住社会での役割などを解明したい。

### 3. 研究の方法

本研究は、中国、韓国、ロシア、日本の東北アジア 4 カ国において現地調査と資料収集を中心に進めるものである。いずれの地域においても 3 人が共同参加して実施するが、専門性に照らして地域別の責任分担をしておきたい。すなわち中国は櫻井龍彦、韓国はサヴェリエフ・イゴリと櫻井、ロシアはサヴェリエフ・イゴリ、日本は浅川晃広である。

研究方法は①各国のロシア・コリアンと朝鮮族集住地における関係者（雇用者としての

企業体と被雇用者としての移住者およびその家族、政策者としての行政など）へのインタビューと資料収集、②ロシア・コリアンと朝鮮族コミュニティでの観察の 2 点を中心とする。①によって、移動要因とパターン分類、移動先国家や地域と朝鮮族社会との諸関係など、②によって、朝鮮族の居住状況と家族関係の可変要因および朝鮮族のネットワーク形成過程などを解明する。

### 4. 研究成果

櫻井龍彦、サヴェリエフ・イゴリ、浅川晃広は、中華人民共和国（上海、広州、深セン、香港、延辺地方）、ロシア（ウラジオストク、ハバロフスク、ウズリイスク、モスクワ、サンクト・ペテルブルグ）、大韓民国（ソウル、釜山、安山、インチョン）、ウズベキスタン（タシケント州など）において、現地調査を実施、収集したデータをもとで、中国朝鮮族とロシア・コリアンの移動要因とパターン分類、移動先国家や地域と朝鮮族社会との諸関係など、中国朝鮮族とロシア・コリアンの居住状況と家族関係の可変要因および中国朝鮮族やロシア・コリアンのネットワーク形成過程などを解明し、その研究成果を、韓国、ロシア、日本の国際シンポジウムにおいて発表し、さらに学術論文・図書においても発表した。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

研究代表者

① Igor Saveliev, "Mobility Decision-Making and New Diasporic Spaces: Conceptualizing Korean Diasporas in the Post-Soviet Space," *Pacific Affairs*, Fall 2010, 刊行予定.

②サヴェリエフ・イゴリ「第一次世界大戦期の中国人移民—ハルビンにおけるロシア企業による契約労働者の募集をめぐる諸問題—」『国際開発フォーラム』38号、2009年3月、1-14頁。

③Igor Saveliev, "Controlling Immigration in the Russian Far East: Recent Migration Patterns and the Local Government's Attitude," Proceedings of International Symposium "Managing Migration in International Context: Challenges from an Emerging Multi-cultural and Multi-ethnic Society in Korea", Inha University, 2008, pp. 41-70.

④サヴェリエフ・イゴリ「ロシアにおけるコリアン—過去と現在—」『第12回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム報告要旨集—』、2007年、133-143頁。

#### 研究分担者

⑤ Akihiro ASAKAWA, Humanitarian Disaster under Humanitarianism: "Repatriation" of Koreans in Japan to North Korea and Its Root Cause, Forum of International Development Studies, 39, March 2010, pp.1-17.

⑥浅川晃広「2007年オーストラリア連邦総選挙結果の分析 「中間層」との関連で」『オーストラリア研究』第22号、2009年、32-44頁、2009年3月。

⑦浅川晃広「グローバリゼーションと国際人口移動」大坪滋編『グローバリゼーションと開発』勁草書房、2009年2月、441-469頁。

⑧ Akihiro ASAKAWA, "Japanese Experience: From Foreigners Policy to Immigration," Policy Proceedings of International Symposium "Managing Migration in International Context :

Challenges from an Emerging Multi-cultural and Multi-ethnic Society in Korea", Inha University, 2008, pp.71-82.

⑨浅川晃広「判例から見た在日外国人犯罪その実証的理解へ向けて」『移民研究年報』第14号、2008年3月、83-95頁。

⑩浅川 晃広 「現代の国際人口移動と在日中国朝鮮族」『第12回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム報告要旨集—』、2007年、177-179頁。

⑪櫻井龍彦 「東アジアにおけるコリアン・ネットワーク研究の視点」『第12回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム報告要旨集—』、2007年、31-58頁。

〔学会発表〕(計12件)

#### 研究代表者

①サヴェリエフ・イゴリ「ポスト・ソヴィエト空間の諸国の移民政策とロシア・コリアン」国際シンポジウム「21世紀におけるディアスポラ再編と国際移動—ロシア、中国、韓国、日本のコリアンの過去と現在—」、名古屋大学、2010年2月19日。

②Igor Saveliev, Conceptualizing Korean Disaporas in the Post-Soviet Space, 1991-2008, Association for Asian Studies Annual Meeting, Chicago, March 27, 2009.

③サヴェリエフ・イゴリ「エスニック・アイデンティティと国家政策—ポスト・ソヴィエト空間のコリアンを事例に」国際ワークショップ"Asian Diasporas in Contemporary Context", サンクト・ペテルブルグ国立大学東洋学部、ロシア、2008年11月10日。

④Igor Saveliev, "Controlling Immigration in the Russian Far East: Recent Migration Patterns and the Local Government's Attitude," International Symposium "Managing Migration in International Context : Challenges from an Emerging Multi-cultural and Multi-ethnic Society in Korea", Inha University, ROK, October 16, 2008.

⑤サヴェリエフ・イゴリ「ロシアにおけるコ

リアン—過去と現在—」『第 12 回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム—』、釜山、韓国、2007 年 11 月 3 日。

研究分担者

⑥ 櫻井龍彦「現代中国の社会変動と人の移動」国際シンポジウム「21 世紀におけるディアスポラ再編と国際移動—ロシア、中国、韓国、日本のコリアンの過去と現在—」、名古屋大学、2010 年 2 月 19 日。

⑦ 浅川晃広「在日中国朝鮮族の実態分析 インターネットアンケート調査から」第 81 回日本社会学会大会におけるポスター発表、東北大学川内北キャンパス、2008 年 11 月 24 日。

⑧ 浅川晃広「在日中国朝鮮族の実態と意識」国際ワークショップ“Asian Diasporas in Contemporary Context”、サンクト・ペテルブルグ国立大学東洋学部、ロシア、2008 年 11 月 10 日。

⑨ Akihiro ASAKAWA, “Japanese Experience: From Foreigners Policy to Immigration,” International Symposium “Managing Migration in International Context: Challenges from an Emerging Multi-cultural and Multi-ethnic Society in Korea”, Inha University, ROK, October 16, 2008.

⑩ 櫻井龍彦「移住者が異郷で築きあげる 2 つのコミュニティについて—中国朝鮮族における「故郷」離れと「故郷」再編の事例—」国際ワークショップ“Asian Diasporas in Contemporary Context”、サンクト・ペテルブルグ国立大学東洋学部、ロシア、2008 年 11 月 10 日。

⑪ 櫻井龍彦「東アジアにおけるコリアン・ネットワーク研究の視点」『第 12 回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム—』釜山、韓国、2007 年 11 月 3 日。

⑫ 浅川晃広「現代の国際人口移動と在日中国朝鮮族」『第 12 回 グローバル・コリアン・フォーラム—朝鮮族の発展のための国際学術シンポジウム—』、釜山、韓国、2007 年 11 月 3 日。

〔図書〕（共書）（計 1 件）

櫻井龍彦『朝鮮族の経済文化社会研究』民族出版社(北京、朝鮮・韓国語)、2008 年、28～41 頁。

浅川晃広『朝鮮族の経済文化社会研究』民族出版社(北京、朝鮮・韓国語)、2008 年、171～174 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Saveliev Igor (名古屋大学大学院国際開発研究科 准教授)

研究者番号：60313491

(2) 研究分担者

櫻井 龍彦 (名古屋大学大学院国際開発研究科 教授)

研究者番号：60170643

浅川 晃広 (名古屋大学大学院国際開発研究科 講師)

研究者番号：80402410

(3) 連携研究者

劉京 宰 (アジア経済文化研究所・所長 )

研究者番号：なし